

研究推進ニュースレター



東京未来大学
研究推進委員会発行
2015年9月30日発行

ご挨拶

研究推進委員会では、本学の研究の活性化をめざし、皆様の研究に資する情報を提供できるように、年二回「研究推進レター」を発行することとしております。今後ますます内容を充実させて参ります。お気づきの点がありましたら、当委員会宛にご意見をいただきたくお願いいたします。是非ご一読いただきまして、皆様の研究の一助となりましたら幸いに存じます。

2015年度研究推進委員会委員長 竹内貞一

科研費ニュース

平成27年度の本学の日本学術振興会科学研究費研究計画調書の採択状況は以下の通りです。

研究種目	(H27年度)		(H26年度)	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)
挑戦的萌芽研究	0件		1件	3,250,000
若手研究(B)	2件	3,510,000	2件	6,760,000
合計	2件	3,510,000	3件	10,010,000

*金額は直接経費+間接経費の金額

H26年度と比較すると、件数については挑戦的萌芽研究の採択がなかったため、1件減少しています。また、金額も64.9%減少となっています。ただ、若手研究(B)の件数は昨年と同数です。来年度は特に若手の件数が増えることを期待するとともに、基盤研究の採択が望まれるところです。「基盤研究」については近々制度変更が噂されており、小規模大学、人文系の研究者にはやや厳しい制度変更になる可能性もささやかれています。是非、現行制度の間に、基盤研究が取れるように、個人、グループでの申請を目指して欲しいと思います。

平成28年度科研費スケジュールと要領は以下の通りです。対象種目ごとにHPで確認してください。また、応募にあたっては、科研費の採択にも詳しい大坊学長の指導を仰ぐことをお勧めいたします。

*公募開始：平成27年9月1日(火)～

*学内期限：10月20日(火) 18時(期限等の相談は庶務係まで)

*提出期限：平成27年11月9日(月) 午後4時30分(各審査機関への最終提出日時)

★特別推進研究、基盤研究(S・A・B・C)、挑戦的萌芽研究、若手(A・B)

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/O3_keikaku/download.html

★研究成果公開促進費 研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/13_seika/keikaku_dl.html

★新学術領域、特別研究促進費

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1361244.htm

◆笹川科学財団（実践研究部門）

本財団の研究助成には、35歳以下の大学院生あるいは非常勤、任期付き雇用研究者用の「学術研究部門」もありますが、ここでは年齢、雇用形態を問わない「実践研究部門」についてご紹介します。

- 基本方針 課題の設定が独創性・萌芽性をもつ研究、発想や着眼点が従来にない新規性をもつ若手の研究を支援。
- 助成対象となる研究
「学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究や、学芸員・司書等が、博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資する調査・研究を対象。」
- 研究計画と助成額
研究計画は、期間内（平成28年4月1日～平成29年2月10日）に達成し成果をとりまとめられるもの。
- 1件あたりの助成額の上限は、実践研究部門は50万円。
- 申請書の受付期間は平成27年11月1日～平成27年11月16日（17時）必着
(笹川科学財団 HP より <http://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/>)

◆足立区環境基金助成事業

平成26年度では本学の教員3人が採択されている助成です。

平成27年度の情報をご紹介しますが、平成27年度は受付期間が4月10日から6月8日で、すでに終了して、28年度分は未発表です。

1. 研究助成の趣旨

環境の保全に貢献する先進的な研究・開発や幅広い波及効果が期待できる活動に対し、足立区環境基金から助成金を交付し、その活動を支援することを目的とします。

2. 助成の対象者 次のいずれかに該当するものとします。

- 1.区内にお住まいの方
- 2.区内の事業者・非営利団体
- 3.平成27年度に「3.助成の対象となる活動」を区内で行う、区外の事業者・非営利団体（平成27年度の場合）

3. 助成の対象となる活動

先進性部門 先進的な技術開発や研究（先進性で評価します）

環境負荷低減部門 環境負荷の低減に効果のある活動（具体的な効果で評価します）

公益的活動部門 地域や区民への波及効果が期待できる活動（活動の公益性や波及効果で評価します）

課題設定部門 課題：福祉施設等における車両の低炭素化

4. 助成金額

助成金の額は、助成の対象となる経費総額の2分の1（1000円未満は切り捨て）です。ただし、1,000万円を上限とします。

※対象経費総額が100万円以下の場合または助成対象者が大学の場合で、審査会が特に優秀であると認められたときは、対象経費総額の全額まで助成することができます。

(足立区「環境に貢献する活動を応援！平成27年度環境基金助成事業のご案内」より

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kankyo/27kankyokikin-boshu.html>

研究紹介

このコーナーでは、東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介するとともに、大坊学長より、「採択のポイント」を解説していただきます。今回は、本年度、科学研究費の若手研究Bに採択されたモチベーション行動科学部の三村昌司先生、こども心理学部森薫先生のおふたりにお話を伺いました。

Q1 三村昌司先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

専門は歴史学、特に日本近代史を研究しています。今回の科研のテーマは「明治前期の議事機関における討論の歴史的研究」というタイトルです。明治になって日本ではじめて議会制度が導入されたときに、そこに参加した人は違和感なく討論できていたのだろうか、ということが問題意識としてあります。さらにその問いを起点として、近代社会とはなにかという問題にも迫ることができるのではないかと考えています。

科研費は主に機材、旅費、文献にあてます。新潟に今回の研究に関する歴史資料があるので、その撮影機材と新潟への旅費。文献は日本近世史や近代史、また日本以外の国の議事制度についても調べる予定です。

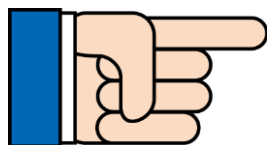
Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

学生にレポートを出すときに注意することと同じことは自分でもやろうと思っています。よく言われることですが、審査員に読んでわかってもらえるように、なるべくわかりやすく書くことを心掛けています。また、文章が日本語としてきちんと成立しているかも注意するようにしています。ただ、それを意識しても3年連続で落とされて今年度ようやく通ったので、あまり偉そうなことは言えません。

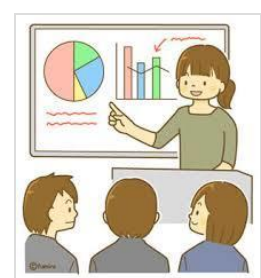
Q3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

今のところ問題なく進んでおります。新潟に調査に行き史料を撮影して帰ってきたら、本格的にそれを分析する作業に入りますので、時間をうまく活用しなければならないと思います。

大坊学長の「ここが採択のポイント」



「議会制度の導入期に適切に討論できたかどうかという」問題設定は面白いですね。現代でもしっかり討論できているかどうか心許ないことだと思います。正しく温故知新ですね。審査者が申請テーマに詳しい人ばかりではなく、詳しい人はむしろ少ないと考えるべきです。「読んでわかってもらえる」趣旨は必須ですね。



Q1 森薫先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教え下さい。



採択されたテーマは「わらべうたを手がかりとした音楽学習における知識変換プロセスに関する研究」というものです。2 段構成の研究となっており、まずは「となえうた」といわれる、主に 2 音で構成された即興性のつよいわらべうたを採集し分析します。今回は特に、誰もが子どもの頃によくうたったと思われる「どれにしようかな」を採集対象とします。その後、即興の展開のされかたとそこに潜む旋律法や、実際にうたっているときの子供達の身体の動きなどを併せて検討していきます。わらべうたという行為を音楽学習の一形態として捉え、そこにあらわれる様々な知識の関わり合いを明らかにしようという試みです。

となえうたは地域による差異が大きいので、科研費の多くは旅費、次いで撮影・録音等の機材費、そして文献収集の費用にあてます。

Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

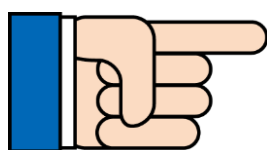
申請にトライするのは 3 回目でした。今回は、研究費申請が得意な旧友からの助言「めちゃくちゃ疲れているおじさん(すみません、でも原文ママです)が、何も考えずにぼーっと読んで理解できる文章を書け」を肝に銘じつつ、また何より本学の中和先生の採択済み申請書を見せて頂いて隅から隅まで参考にしつつ、推敲しました。

具体的には、大事なキーワードは何度も敢えて登場させ、文学ではなく音楽の視点から迫るということをアピールする意図で楽譜を載せる等、キャッチーさを心がけました。また、わらべうた関連の研究歴が浅いので、普段の研究のメインテーマである「音楽学習に関わる知識」と接合させた題目にしたのも奏功したかもしれないと考えています。

Q3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

ほぼ予定通りに行っています。現在はデータの採集をしています。集まった後が本番であるとも思いますので、気を引き締めて、うまく時間を確保しながら取り組みたいです。

大坊学長の「ここが採択のポイント」



「めちゃくちゃ疲れているおじさん」にアピールするよ
うにというのは正解でしょうね。審査者はしっかり読み
取ろうとはしているのですが、数十の申請書を読むの
で、飽きてくる作業でもあります。そこで、なにか新鮮
な工夫がなされていると引き込まれるものです。イラ
スト、フローチャート、図(楽譜なども)などは効果的
です。キーワードを強調することもグッと・ポイントです。

編集後記

今回の研究推進ニュースレターは前回の 2 ページから 4 ページと分量も増え、いくつか新しい試みを行いました。

外部資金等公募情報は学会以外で、対象領域も広く、比較的多くの先生方が申請しやすい 2 件をご紹介します。特に足立区の助成は平成 26 年度には本学から 3 件採択されていて、本学としては採択されやすいとのことで、特に若手の先生方の業績づくりには適したものと思われます。また、科研費採択された先生方へのインタビューには大坊学長から採択のポイントをわかりやすく、解説していただきました。これは、これから申請される先生方には参考としていただきたいと思ひます。

今後とも大学として、科研費をのみならず、様々な外部資金獲得に向けて邁進していきましょう。